



# 2017年度 決算説明会資料

2018年5月9日

株式会社UACJ

© 2013 UACJ Corporation. All rights reserved.

ご多忙なかにお集まりいただき、誠にありがとうございます。

本日は2部構成です。

最初に社長の岡田が2017年度決算について説明します。

その後、次期社長の石原が中期経営計画について説明します。

1. 2017年度通期業績

2. 2018年度通期業績見通し

1. 2017年度通期業績
2. 2018年度通期業績見通し

## 1. 2017年度通期業績

それでは、2017年度通期業績について説明します。

## 経常利益 194億円 (ほぼ前期並み)

■ 数量：前期比増、UATH\*<sup>1</sup>缶材、自動車材、半導体・液晶製造装置向けが増加

■ 経常利益：前期比4億円 (2.1%) 減 (ほぼ前期並み)

### 「主な増益要因」

- ・棚卸評価関係の好転
- ・UATH業績改善

### 「主な減益要因」

- ・エネルギーコスト上昇
- ・TAA\*<sup>2</sup>戦略投資立上げコスト増加
- ・CUA\*<sup>3</sup>立上げコスト増加
- ・米国税制改正に伴う持分法適用会社 (Logan\*<sup>4</sup>) での繰延税金資産の取り崩し

■ 純利益\*<sup>5</sup>：123億円 (前期比35億円増、+40.6%) 米国税制改正に伴う減税効果

## 配当 年間60円/株を予定

■ 期末配当は30円/株を予定

(中間配当30円\*<sup>6</sup>/株、期末配当30円/株)

\*1: UACJ (Thailand) Co., Ltd. \*2: Tri-Arrows Aluminum Inc. \*3: Constellium-UACJ ABS LLC \*4: Logan Aluminum Inc.  
\*5: 親会社株主に帰属する当期純利益 \*6: 株式併合 (2017年10月1日) 後の換算値

© 2013 UACJ Corporation. All rights reserved.

3

2017年度通期業績の概要です。

経常利益は194億円。若干減少しましたが、ほぼ前年度並みでした。

数量は前年度比で増加しました。要因は、主にタイのUATHの缶材、日本国内を中心に、自動車材、半導体・液晶製造装置向けアルミ板販売量が増加したことです。

経常利益は、前年度比4億円減です。

主な増益要因は、棚卸評価関係が好転したことです。タイのUATHの業績改善もプラス要因として働いています。

一方、主な減益要因は、エネルギーコストの上昇や、北米TAA戦略投資に伴う立上げコストの増加、CUAの立上げコスト増加が続いていることです。そして、米国税制改正に伴う持分適用会社のLoganでの繰延税金資産の取り崩しなどにより、ややマイナスが出ています。

親会社株主に帰属する当期純利益は123億円でした。

米国税制改正に伴う減税効果が35億ほどあり、この影響で大きくプラスになっています。

当期の期末配当は1株当たり30円、年間合計では株式併合後換算で60円を予定しています。

## 2017年度 通期業績

UACJ

(単位：億円)

	2016年度 (A)	2017年度 (B)	増減 (B) - (A)
連結売上高	5,683	<b>6,243</b>	560
連結営業利益	259	<b>292</b>	33
棚卸影響前 連結経常利益	240	<b>113</b>	△127
連結経常利益	198	<b>194</b>	△4
連結当期純利益	87	<b>123</b>	35
Adjusted EBITDA	568	<b>507</b>	△60

※ 連結当期純利益：親会社株主に帰属する当期純利益  
 ※ Adjusted EBITDA：EBITDA - 棚卸評価関係

© 2013 UACJ Corporation. All rights reserved.

4

2016年度と2017年度の業績の比較表です。

連結売上高について説明します。販売数量は前年度を上回り、また、地金価格上昇による影響などもあり、前年度比560億円増の6,243億円となりました。

連結営業利益は前年度比33億円増の292億円でした。一方、棚卸影響前の連結経常利益は前年度比127億円減の113億円、連結経常利益は前年度比4億円減の194億円でした。のちほどウォータフォールで説明します。

連結当期純利益は、米国税制改正に伴う法人税減税の影響で大幅に増加し、前年度比35億円増の123億円となりました。

Adjusted EBITDAは、棚卸の影響もあり前年度比60億円減の507億円となりました。

## セグメント別 売上高・営業利益

UACJ

(単位：億円)

	2016年度 (A)		2017年度 (B)		増 減 (B) - (A)	
	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益
アルミ圧延品	4,513	268	<b>4,979</b>	<b>297</b>	467	29
伸銅品	432	7	<b>456</b>	<b>21</b>	24	14
加工品・関連事業	1,667	37	<b>1,846</b>	<b>43</b>	179	5
(調整額)	△929	△53	<b>△1,039</b>	<b>△68</b>	△110	△14
合 計	5,683	259	<b>6,243</b>	<b>292</b>	560	33

© 2013 UACJ Corporation. All rights reserved.

5

セグメント別の売上高、営業利益について説明します。

当社グループの主力セグメントであるアルミ圧延品は、増収増益でした。後ほどグラフを使って詳しく説明します。

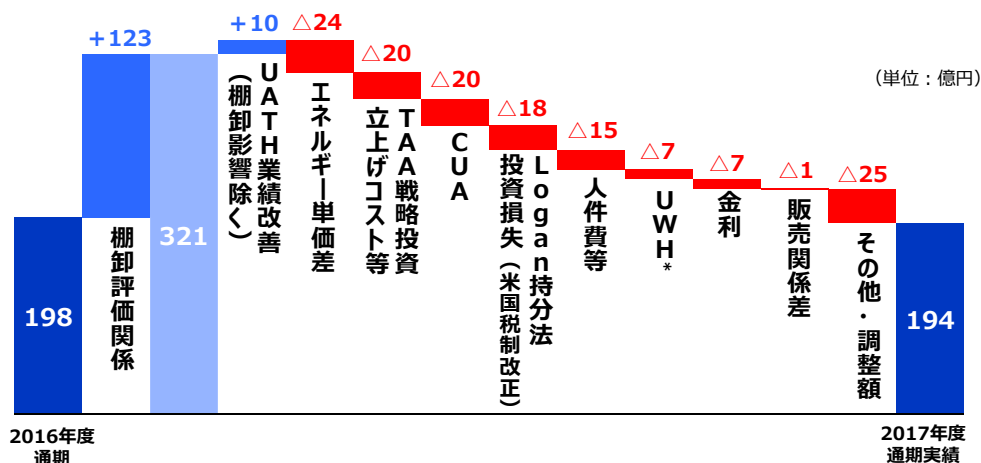
伸銅品も増収増益となりました。主力であるエアコンの出荷台数が、総じて堅調に推移したためです。

加工品・関連事業も増収増益でした。要因は、IT関連の需要増加と棚卸評価が上がったことです。

# 連結経常損益分析 (2016年度 → 2017年度)



198億円 (2016年度) → 194億円 (2017年度)



\*UWH: UACJ Automotive Whitehall Industries, Inc.

© 2013 UACJ Corporation. All rights reserved.

6

経常利益の損益分析です。

2017年度の経常利益は、194億円でした。2016年度の198億円から4億円減少と、ほぼ前期並みです。

増益要因は、地金価格上昇による棚卸評価の関係がプラス123億円、そして、タイのUATHの業績が、棚卸の影響を除きプラス10億円と改善したことです。

一方、赤で示されている減益要因は、エネルギー価格上昇でマイナス24億円、TAA戦略投資立上げコストでマイナス20億円、CUA立上げコストでマイナス20億円、一過性ですがローガン工場の持分法投資損失（米国税制改正）でマイナス18億円、同じく一過性ですが残業代精算の9億円など人件費等がマイナス15億円でした。

これらの結果、最終的な着地点は194億でした。

## アルミ板 品種別売上数量

UACJ

(単位:千t)

品 種	2016年度 (A)	2017年度 (B)	増 減 (B) - (A)
缶 材	626	<b>602</b>	△24
箔 地	47	<b>49</b>	2
I T 材	20	<b>21</b>	1
自 動 車 材	104	<b>135</b>	31
厚 板	67	<b>69</b>	1
その他一般材	158	<b>174</b>	16
合 計	1,021	<b>1,049</b>	28
	( 国内市場向け 518 海外市場向け 503 )	( 国内市場向け 529 海外市場向け 520 )	( 10 17 )

© 2013 UACJ Corporation. All rights reserved.

7

アルミ板品種別の売上数量です。

2017年度の合計は104万9千トンでした。前年度から2万8千トン増加し、2年連続で100万トンを突破しました。

缶材は、日本国内では夏期の天候不順などによりビール類の販売が伸び悩みました。一方、アジア市場では缶材が好調で、UATHの圧延の缶材販売量が大幅に増加しました。北米TAAでは、自動車向け母材を増やしたことにより缶材が減少しました。これらの結果、2万4千トン減少しました。

箔地、IT材はほぼ前年度並みでした。

自動車材は3万1千トン増加しました。アルミ化需要の伸長に対応し、パネル材・熱交換器材ともに好調だったためです。

厚板は、LNG船向けが減少しました。一方、半導体・液晶製造装置向けは大幅に伸長しました。これらにより、前年度より若干増加しました。

その他一般材は、エアコン用のフィン材が増加したことにより1万6千トンでした。



## 2. 2018年度通期業績見通し

2018年度通期業績見通しについて説明します。

## 2018年度 通期業績見通しの概要



**経常利益 200億円（ほぼ前期並み）**

■ **数量：前期比増、缶材、自動車材が増加**

■ **経常利益：前期比 6億円（3.1%）増**

「主な増益要因」

- ・販売関係の好転
- ・コストダウン
- ・持分法損益の改善

「主な減益要因」

- ・棚卸評価関係
- ・エネルギーコスト上昇

■ **純利益：100億円（前期比 23億円減、△18.4%）**

**昨年度の米国税制改正減税効果の減少等**

**配当 年間60円/株を予定**

■ **利益向上を重視、業績連動・期末一括による配当方針に変更**

「目安」配当性向 20%～30% 総還元性向30%以上（長期）

2017年度 中間30円/株+期末30円/株→ 2018年度 期末一括で60円/株を予定

© 2013 UACJ Corporation. All rights reserved.

9

経常利益は前年度比6億円増の200億円と、微増の見込みです。

数量は、タイにおいて缶材の大幅増加と自動車材の増加を見込んでいます。また、国内を中心に自動車材・パネル材が増加する見込みです。

経常利益の増益要因としては、販売関係の好転やコストダウン、持分法損益の改善があると想定しています。一方、減益要因については、前年度の地金価格の上昇を受けて当期は棚卸評価関係のマイナスが発生し、またエネルギーコストがさらに上がるという見立てをしています。

純利益は100億円を見込んでいます。前年度の米国税制改正の減税効果が減少するため、23億円減少する見込みです。

配当は年間60円を予定しています。

なお、配当方針を一部変更しました。利益向上を重視しつつ、業績の動向や財務の状況などを考慮した結果、業績連動・期末一括の配当とします。これまでは中間期で併合後換算30円、期末で30円配当でしたが、今後は通期での利益に応じた機動的な株主還元を行うという観点から、期末一括配当60円に変更する予定です。

株主の皆様への配当実施を利益還元の重要な施策と位置づけ、安定的かつ継続的に配当するという基本方針は変わりません。目安としては、配当性向20～30%、長期的には総還元性向30%以上を想定しています。

## 2018年度 通期業績見通し

UACJ

(単位：億円)

	2017年度 (A)	2018年度見通し (B)	増 減 (B) - (A)
連結売上高	6,243	<b>6,700</b>	457
連結営業利益	292	<b>280</b>	△12
棚卸影響前 連結経常利益	113	<b>164</b>	51
連結経常利益	194	<b>200</b>	6
連結当期純利益	123	<b>100</b>	△23
Adjusted EBITDA	507	<b>572</b>	65

諸元（2018年度）：アルミ地金日経平均 296円/kg，為替 110円/US\$，原油（ドバイ）60US\$/B

※ 連結当期純利益：親会社株主に帰属する当期純利益

※ Adjusted EBITDA：EBITDA - 棚卸評価関係

© 2013 UACJ Corporation. All rights reserved.

10

2017年度と2018年度の通期業績見通しです。

連結売上高は、2017年度前半と比較すると、2018年度の地金価格の上昇や販売数量の増加などにより、前年度比457億円増を見込んでいます。

連結営業利益は前年度比12億円減の280億、棚卸影響前経常利益は前年度比51億円増の164億、連結経常利益は前年度比6億円増の200億の見込みです。

連結経常利益はウォーターフローで説明します。

連結当期純利益は、先ほど説明したとおり、法人税減税の効果の減少などにより、前年度比23億円減の100億円を見込んでいます。

Adjusted EBITDAは、前年度比65億円増の572億円を見込んでいます。

## セグメント別 売上高・営業利益



(単位：億円)

	2017年度 (A)		2018年度 見通し (B)		増 減 (B) - (A)	
	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益
アルミ圧延品	4,979	297	<b>5,300</b>	<b>290</b>	321	△6
伸銅品	456	21	<b>550</b>	<b>20</b>	94	△1
加工品・関連事業	1,846	43	<b>2,000</b>	<b>40</b>	154	△3
(調整額)	△1,039	△68	<b>△1,150</b>	<b>△70</b>	△111	△2
合 計	6,243	292	<b>6,700</b>	<b>280</b>	457	△11

© 2013 UACJ Corporation. All rights reserved.

11

セグメント別の売上高、営業利益の見通しを説明します。

当社グループの主力セグメントであるアルミ圧延品は、増収ですが利益は若干減る見込みです。アルミ圧延品の動きはグループ全体の動きと連動していることから、後ほど説明します。

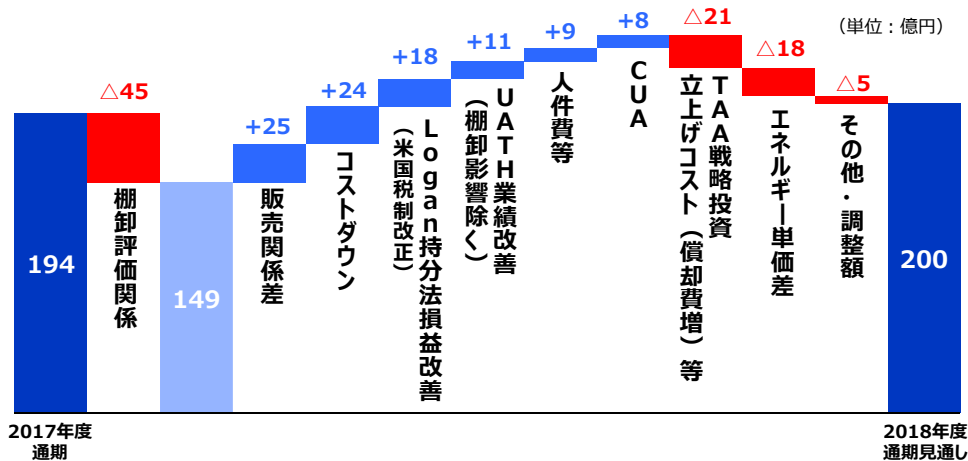
伸銅品は、主力のエアコン向け販売数量の増加により増収見込みです。利益は、棚卸評価関係が悪化する影響で、横ばいもしくは若干減の見込みです。

加工品・関連事業は、IT関連需要が引き続き順調で増収を見込んでいます。利益は、棚卸評価関係の悪化の影響もあり、横ばいもしくは若干減の見込みです。

# 連結経常損益分析 (2017年度 → 2018年度 見通し)



194億円 (2017年度) → 200億円 (2018年度見通し)



© 2013 UACJ Corporation. All rights reserved.

12

経常利益の損益分析です。

2018年度の経常利益は200億円と、2017年度の194億円からほぼ横ばいの見通しです。

棚卸評価関係は、前年度の地金価格上昇が大きかったため、前年度比で45億円悪化すると予測しています。

主な増益要因は、販売関係差でプラス25億円、コストダウンでプラス24億円、前年度のLogan工場の持分法投資損失がなくなったことによる一過性の増益でプラス18億円、UATHの業績改善で11億円、一時的な人件費支払がなくなった（残業代未払いの解消。一過性）でプラス9億円、CUAの改善でプラス8億円を見込んでいます。

一方、主な減益要因としては、TAA戦略投資立上げコストの継続によるマイナス21億円、エネルギー価格の上昇によるマイナス18億円などがあります。これらの結果、着地点は200億円と見込んでいます。

## アルミ板 品種別売上数量

UACJ

(単位:千t)

品 種	2017年度 (A)	2018年度 (B)	増 減 (B) - (A)
缶 材	602	657	56
箔 地	49	53	4
I T 材	21	25	5
自 動 車 材	135	149	14
厚 板	69	52	△17
その他一般材	174	179	5
合 計	1,049	1,115	66
	( 国内市場向け 529 海外市場向け 520 )	( 国内市場向け 538 海外市場向け 577 )	( 9 57 )

© 2013 UACJ Corporation. All rights reserved.

13

アルミ板品種別売上数量について説明します。

2018年度は111万5千トンと、前年度比6万6千トン増の見込みです。3年連続の100万トン超えを期待しています。

缶材は、5万6千トンと大幅増加を見込んでいます。東南アジアを含むアジア地域の缶材が伸長し、タイの圧延工場の缶材の受注が旺盛になるものと想定しています。

箔地、ITは、ともに若干増加する見通しです。電池材を中心とした受注増加を見込んでいます。

自動車も増加する見込みです。主に国内の自動車向けパネル材の受注増加を想定しています。

厚板は、LNG船向けが大幅に減少する見通しです。一方、半導体・液晶製造装置向けは前年度同様に高水準で推移するものの、ややマイナスと見込んでいます。

その他一般材は、ほぼ横ばいの見込みです。

2018年度はUATH、TAAの戦略投資を中心に増加見通し

(単位：億円)

		2017年度	2018年度 見通し
設備投資	一般投資	147	174
	戦略投資	365	447
	合計	512	621
減価償却費		251	291
戦略投融資		33	20

設備投資・減価償却費の見通しです。

2017年度の設備投資は512億円、減価償却費は251億円でした。

2018年度の一般投資は30億弱増えています。名古屋と福井において圧延関係の電源・モーター関係の不可欠な更新があるためです。

戦略投資は80億ほど増えています。ここにはタイのUATHへの戦略投資、北米TAAへの戦略投資が含まれています。

減価償却費は、これらの増加に伴い291億円となる見込みです。

戦略投融資は、北米のCUAの融資がメインです。

純利益増加に伴いROEが改善

	2017/3末	2018/3末
自己資本（億円）	1,841	<b>1,942</b>
自己資本比率（%）	25.4	<b>25.1</b>
有利子負債（億円）	3,238	<b>3,423</b>
D/Eレシオ*（倍）	1.49	<b>1.50</b>
R O E（%）	5.0	<b>6.5</b>

\* 劣後ローンの資本性考慮後

主な連結経営指標です。

純利益の増加に伴い、2018年3月末時点では自己資本とROEは好転し、6.5%と見込んでいます。

一方、北米への投資が続き、有利子負債がやや増加する関係で、D/Eレシオと自己資本比率は前年度並みもしくは若干悪化する見通しです。

以上が決算に関する概況です。

2017年度の業績は、2017年5月に公表した見通し数値に対して大幅に下回りました。タイのUATHや北米CUAなどの立ち上げ遅れなどが影響したためです。非常に残念に思っています。

一方、先週もタイに行ったのですが、足元の感覚としてはタイ、北米ともに手応えを感じています。ただし、保護主義政策や米中貿易摩擦への懸念といったリスクが高まっていることから、2018年度の見通しは前年度並みとしました。



## ご参考データ

## 2017年度 通期業績

(2017年度通期見通し: 第3四半期決算発表時 → 2017年度実績)



(単位: 億円)

	2017年度 通期見通し 第3Q発表時修正 (A)	2017年度 通期実績 (B)	増減 (C) - (B)
連結売上高	6,300	6,243	△57
連結営業利益	300	292	△8
連結経常利益	220	194	△26
連結当期純利益	140	123	△17

※ 連結当期純利益: 親会社株主に帰属する当期純利益

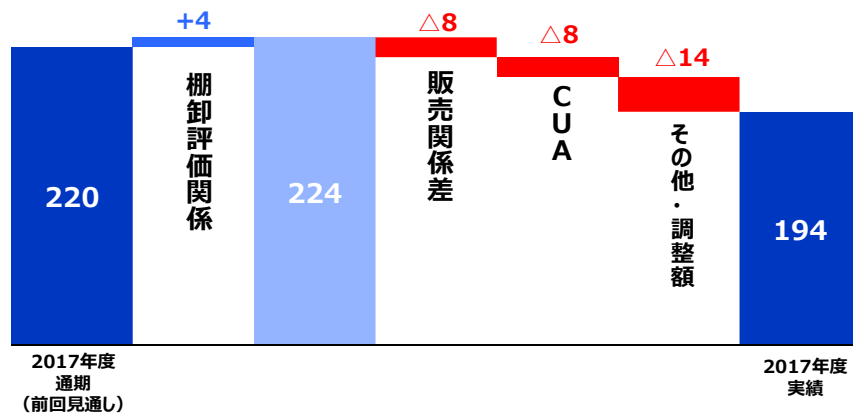
# 連結経常損益分析

(2017年度通期見通し 第3四半期決算発表時 → 2017年度実績)



220億円 (2017年度通期 前回見通し) → 194億円 (2017年度 通期実績)

(単位：億円)

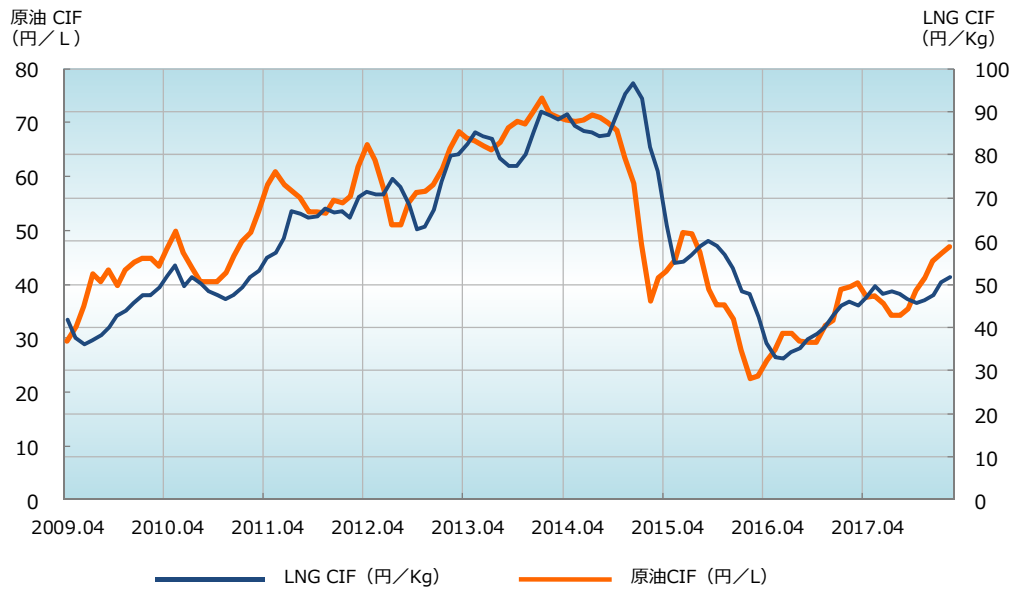


## 諸元と感応度

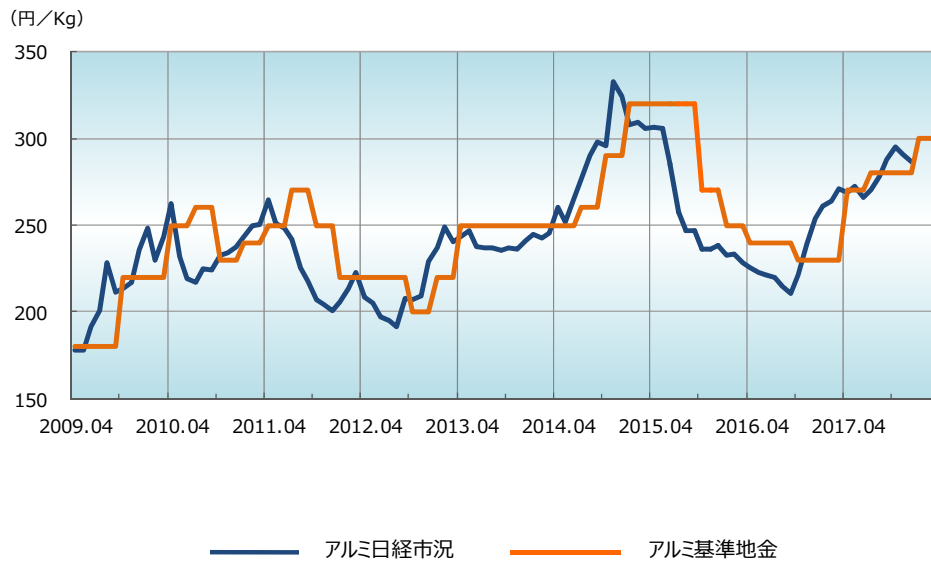


	2017年度 (実績)	2018年度 (見通し)	経常利益への 感応度
アルミ地金 日経平均 (円/kg)	283	296	10円/kg上昇した場合 →+20~+30億円/年
LME (米\$)	2,045	2,150	\$100/t上昇した場合 →+22~+35億円/年
為替 (円/米\$)	112	110	ほぼ影響なし
為替 (円/タイヤーツ)	3.31	3.5	・燃料単価、添加金属：円高が有利 ・ロールマージン、為替換算差：円安が有利
原油 (ドバイ: 米\$)	57	60	10ドル上昇した場合 →△10~△15億円/年

# 燃料単価推移



# アルミ地金日経平均・アルミ基準地金



(億円)	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度 (見通し)	
売上高	5,725	5,757	5,683	6,243	6,700	
連結営業利益	237	152	259	292	280	
棚卸影響前連結経常利益	142	203	240	113	164	
<棚卸評価関係>	71	△83	△42	81	36	
連結経常利益	213	120	198	194	200	
連結当期純利益	86	51	87	123	100	
Adjusted EBITDA	417	523	568	507	572	
設備投資	一般投資	120	124	112	147	174
	戦略投資	345	181	204	365	447
	合計	465	305	316	512	621
減価償却費	218	222	228	251	291	
戦略投融資	38	55	231	33	20	
自己資本	1,723	1,650	1,841	1,942	2,016	
自己資本比率 (%)	25.4	24.9	25.4	25.1	24.7	
有利子負債	2,959	2,890	3,238	3,423	3,805	
D/ELレシオ (倍) *	1.72	1.75	1.49*	1.50*	1.63*	
ROE (%)	5.3	3.0	5.0	6.5	5.0	

\* 劣後ローンの資本性考慮後

## 将来情報についての注意事項

この資料に記載されております売上高及び利益等の計画のうち、過去または現在の事実に関するもの以外は、当社グループの各事業に関する業界の動向についての見通しを含む経済状況ならびに為替レートの変動その他の業績に影響を与える要因について、現時点で入手可能な情報をもとにした当社グループの仮定及び判断に基づく見通しを前提としております。

これら将来予想に関する記述は、既知または未知のリスク及び不確実性が内在しており、実際の売上高及び利益等と、この資料に記載されております計画とは、今後さまざまな要因によりこれらの業績見通しとは大きく異なる場合があり、確約や保証を与えるものではないことをご承知おさください。また、本資料は投資勧誘の目的のための資料ではありません。

## 著作権等について

この資料のいかなる部分についてもその著作権その他一切の権利は、株式会社UACJに帰属しており、あらゆる方法を問わず、無断で複製または転用することを禁止します。

本資料ならびに I R 関係の問い合わせにつきましては、下記までお願いいたします。

**広報IR部 TEL : 03-6202-2654 FAX : 03-6202-2021**

**URL : <http://www.uacj.co.jp>**

**(東証1部 コード番号 : 5741)**